

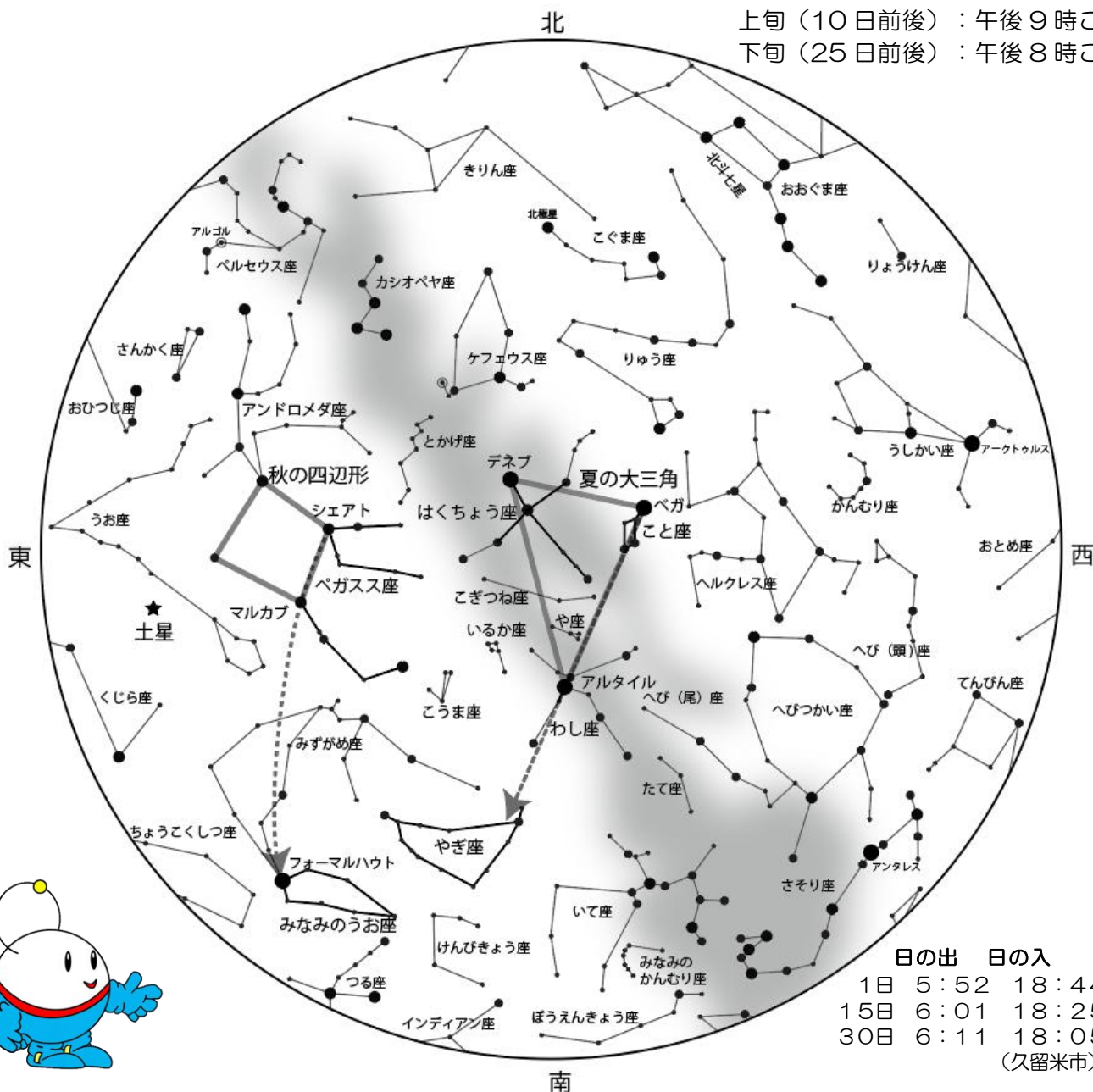
令和8年

9月の星空さんぽ

福岡県青少年科学館
TEL0942(37)5566



上旬（10日前後）：午後9時ごろ
下旬（25日前後）：午後8時ごろ



	日の出	日の入
1日	5:52	18:44
15日	6:01	18:25
30日	6:11	18:05

(久留米市)

日の入りが早まり、徐々に秋らしくなってきました。しかし、夜空ではまだまだ、夏の星座たちが主役です。頭の真上付近で明るく輝く3つの1等星を結んだ『夏の三大角』を目印に、夏の星座を探してみましょう。

夏の三大角を形づくる星のうち、最も明るく輝く1等星がこと座のべがです。こと座は、べがとすぐそばにある小さな四角形の星の並びが目印です。そこから南へ少し視線を下ろすと、わし座の1等星アルタイルが見つかります。わし座は、アルタイルと両脇にある2つの星の並びが目印です。また、べがから東へ視線を移すとはくちょう座のデネブが輝いています。はくちょう座は、デネブを頂点とした十の字の星の並びが目印です。

一方、秋の星座も見え始めています。べがとアルタイルを結んだ線を地平線の方へ伸ばすと、笑った口のような星の並びが目印のやぎ座が見つかります。東の空には秋の代表的な星座の1つペガサス座が昇っています。ペガサスの胴体に当たる4つの星をつないだ四角形は『秋の四辺形』と呼ばれ、秋の星座探しの案内役です。秋の四辺形の右側の2つの星、シェアとマルカブを結んだ線を地平線の方へ伸ばすと、みなみのうお座の1等星フォーマルハウトが見つかります。

また、9月下旬は土星を一晩中見ることができる観察の好期です。昨年は土星の環が真横を向いていましたが、今年は傾きが少しずつ大きくなり、天体望遠鏡で観察すると美しい環を楽しめます。

夏の星座と秋の星座、両方を楽しめる9月。心地よい風を感じながら、星空さんぽをお楽しみください。

《9月の天文カレンダー》

日	曜日	天文現象	日	曜日	天文現象
4	金	● 下弦 (16:51)	23	水	秋分の日／秋分(太陽黄経 180 度)
11	金	● 新月 (12:27)	25	金	中秋の名月
19	土	● 上弦 (5:44)	27	日	○ 満月 (1:49)

【惑星の見え方】 (☆マークは、今月のおすすめです。)

水星 (-0.1 等～-1.4 等)	: しし座→おとめ座	観望に適さない。
金星 (-4.5 等前後)	: おとめ座付近	上旬は日の入り前西の低空で輝くが、中旬以降は観望に適さない。
火星 (1.2 等前後)	: ふたご座→かに座	日の出前、東の空で輝く。
木星 (-1.8 等前後)	: かに座→しし座	日の出前、東の低空で輝く。
☆土星 (0.4 等前後)	: うお座→くじら座	真夜中に南の空高いところで輝く。

注目の天文現象(9月) ～月と土星の接近を観察しよう～

気流が安定し、星々の輝きがひととき美しく感じられる秋がやってまいりました。

今年の「中秋の名月」は9月25日ですが、実際に満月となるのは、2日後の9月27日です。

特におすすめしたいのが、満月となる9月27日の宵の東の空です。まばゆく輝く満月のすぐそばに0.4等の明るさを放つ土星が寄り添って見えます。土星は10月4日に、地球から見て太陽の正反対に位置する「衝(しょう)」となり、年間で最も地球に近づきます。そのため、この時期の土星は明るさを増しており、観察好期になります。満月の光のそばでは、土星の輝きが少し目立たないかもしれませんが、しかし、周辺には他に明るい星がほとんどないため、存在感のある月を目印にして探せば、肉眼でも見つけやすいでしょう。

秋の夜長、月を愛でる古来の風習とともに、はるか彼方で静かに輝く土星との神秘的な共演を、ぜひご堪能ください。



【ステラナビゲータ 11/株式会社アストロアーツ】

《天文イベントのご案内》

☆市民天体観望会 9月19日(土) 19:30～20:30

要予約



「月のクレーターと夏の星座をたのしもう」

■対象: 制限なし(ただし、中学生以下は保護者同伴) ■定員: 100名 ■参加費: 無料

■予約: 9月5日(土) 9:30から、オンラインにて予約受付開始

プラネタリウムで星空解説を聞いた後、科学館屋上にて望遠鏡を使って天体の観察を行います。ぜひ、本物を見る体験を!

(観望ができない場合でも、プラネタリウムでの星空解説は行います。)



ご予約用QRコード